

令和4年度北杜市総合教育会議 会議録（要旨）

開催日時 令和4年11月21日（月） 午後1時30分

開催場所 北杜市役所 北館大会議室

出席者 委員  
輿水清司 教育長、古屋昭彦 教育長職務代理者、浅川英三 教育委員、藤森勇 教育委員、小林秀彦 教育委員、伊藤やよい 教育委員  
上村英司 市長

教育委員会（教育部）

加藤寿 教育部長、平井ひろ江 教育部参事、鷹左右紀 教育総務課長、田中伸 中央図書館長、村松佳幸 学術課長、小林晋 甲陵中・高等学校事務長、進藤俊幸 教育指導監、氏原求 指導主事、中田光泰 学校給食課長、浅川大輔 教育総務課総務担当リーダー、大久保裕斗 教育総務課総務担当

事務局

板山教次総務部長、佐藤康弘 総務課長、原章浩 総務課総務担当リーダー、平嶋華奈 総務課総務担当

議題 (1) 北杜市のいじめ対応について  
(2) 長期欠席と不登校等の現状と取組について  
(3) 「原っぱ教育」推進のための「ほくと學」応援事業について  
(4) その他

公開・非公開の別 公開

傍聴人の人数 2人

内容

1. 開会（午後1時30分）
2. 市長あいさつ
3. 教育長あいさつ

#### 4. 協議事項

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第1条の4第3項の規定に基づき会議招集者が市長であるため、市長が協議事項の進行役となる。

(進行)

「(1) 北杜市のいじめ対応について」を教育部に説明を求める。

(教育部)

資料『北杜市総合教育会議』(1) いじめ対策について (2) 学校におけるいじめへの対応について より説明。

(進行)

意見、質問を求める。

(委員)

いじめの認知方法はアンケートに頼る中で、アンケートを毎月行っている学校と2ヶ月に1回行っている学校の違いは。

併せて、意見になるが、学校や地域によって、あるいは家庭状況によっていじめの事例は違うと思うが、その事例について各学校で情報交換をすると、よりいろいろなケースでの対応力が高まってくるのではと感じる。

(教育部)

まず、市のアクションプランや基本方針では、アンケートの実施回数は、1ヶ月に1回程度ということで依頼している。どれぐらいの回数が適当であるかは、8校で検討しているところである。基本的には、これまで学期に1回程度だったものを今年度から増やしている状況だが、この回数について不十分であれば改善の余地があると考えているため、今後検討していきたい。続いて、事例の情報交換については、今示しているいじめの状況に関わる数値についても市の小中学校の校長会で共有している。各校の認知件数や、どのような方法で認知に努めているかを示す中で、それぞれの学校で認知の方法を振り返る材料になればと考えている。

(委員)

質問が3点ある。1点目は「こども相談ホットライン」については、これまで活用があったかどうか。2点目は、スクールソーシャルワーカー（以下、S

SWという。)を増員してほしいという具体的な声が挙がっていれば教えてほしい。3点目は、早期発見に向け、子どもや保護者の声を学校で吸い上げていくことが大事だと考えるが、具体的にどのように声を吸い上げているのか。

(教育部)

まず1点目の質問について、現在3件の相談を受けている。SSWが相談を受けた子供に対して、学校や保護者と連絡を取りながら対応し、相談を受けた案件については全て解決しているという報告を受けている。続いて、2点目のSSWの増員について、SSWを1名増員し、「こども相談ホットライン」だけでなく各校に訪問して子どもたちの日常的な学習の様子を見守り、子どもたちと対面しながら関係作りの構築にも努めており、よりきめ細やかな体制の構築が整いつつあると考えている。また、学校からSSWの訪問要請があり、この声が学校からの必要性の声だと感じている。最後に、3点目の質問について、市内で取り組んでいることとして、先生方や家庭に対して「SOSの受け止め方」という研修を行っている。同時に、子どもたちに対してSOSの発し方を学ぶ学習会を行っている。また、生活ノートを活用し、学校の様子を書く機会や、家庭と日常的にやり取りをする機会がある。そのような中で子どものシグナルを受け止める姿勢が大事だと思う。

(委員)

質問が3点ある。1点目は、「こども相談ホットライン」の件で、相談が入った時間帯はどうか。2点目は、学校内で、学級でのいじめに対する情報交換の状況は。3点目はSNSを使ったいじめ等はどのような対応をしているのか。また、意見になるが、今日の資料の中で参考になったのが、法律上のいじめと社会通念上のいじめで少しギャップがあるというところである。良かれと思ってやっていることも受け止め側にとってはいじめられたとってしまうようなところの差だと思う。

(教育部)

まず1点目の質問について、「こども相談ホットライン」の開設時間は朝9時から18時までで平日のみの開設となっている中で、相談は夕方が多い。一番遅い時間帯では17時50分での相談があった。回線は携帯電話で受けており、着信が残る為、開設時間を過ぎてから着信が入った際は、かけ直すような対策をとっている。続いて、2点目の質問について、各校で大体週1回程度は各校で情報交換の場は確保されているため、今後、そうした場をさらに充実させることもできると思う。最後3点目の質問について、SNSを使ったいじめは各

校でアンテナを高くしなければいけないと考えており、小学校や中学校においても警察や、県の生涯学習課の方でSNSを安全に使うための研修を積極的に行っている。子どもたちに学習する機会を学校の中で確保しながら、安全にSNSと付き合えるように努めていきたい。

(委員)

アンケートは、ある程度定期的に行い、学校だけではなく家庭でも行うような実施方法もあって良いと思う。合わせて、いじめの認知件数が、小学校は433件で中学校は13件とあまりにも件数に開きがあるところと、いじめに対する意識の調査と相談に関わる意識の調査について、本市と全国の結果と比べると中学校だけポイントが低いのが気になった。

(教育部)

アンケートについては、学校や家庭でどちらの場合でも行われるような形が望ましいと考えている。実際、家庭で行うような形の調査が行われている学校もあり、毎回でなくても年間のうち何回かそうした形が取れると、家庭で落ち着いた環境で保護者と相談しながら行うことができるため、より子どもや家庭の声をしっかりと吸い上げることができると思う。

(委員)

本市の小学校でいじめの認知件数が、たくさんあることに驚いた。アンケートの質問の言葉自体に、弱者と強者の構図が如実に表れていて、いじめという言葉に子どもや家庭や周りの人たちはピリピリしていると思う。資料のグラフにも表れているように、いじめに関わりを持ちたくないという心理状態は誰にもあることだと思う。おそらく認知件数がこれだけあるということは実際に起こったことだと思うが、アンケート質問の項目の内容は、どのような言葉づかいでどのように聞いているのかが、結果に関わると感じる。アンケートの内容について、市で統一して配布されているものがあるのか伺いたい。また、SOSの発信の仕方の指導やシグナルを受け止める体制作りは今後も継続して行っていただきたい。

(教育部)

アンケートについては市で統一したものではなく、各校で作成したものを利用している。内容については市教委の方へ提出をしてもらっているが、内容を確認したところ、内容そのものに大きな差は見られなかった。ただし、それぞれの学校で作っているため、質問の仕方が異なるテーマがあるというのが状況

です。

(進行)

教育長、まとめをお願いしたい。

(教育長)

私もこの資料を見る中で、小学校と中学校の認知件数の大きな差というのは大きな課題だと感じる。おそらく小学校低学年の方が多く、高学年になるにつれて認知件数は少なくなり、生活年齢によっていじめの線引きが違う傾向があると考える。したがって、いかに小学校、中学校で子どもたちに聞き取りをする機会を多くするかが重要だと思う。そして、本市の特徴として小学校から中学校へ入学する際、メンバーが変わらない地域が多い。人間関係が固定化することにより、いじめが潜在化していくように感じる。指導者側はこのような点を意識してもらいたく、子どもたちにもこのような考え方をぜひ知ってもらいたい。

(進行)

いじめはどうしても存在してしまう。どうやって早期に把握していくかということが大事だと思う。

「(2) 長期欠席と不登校等の現状と取組について」を教育部に説明を求める。

(教育部)

資料『北杜市総合教育会議』(1) 長期欠席について (2) 長期欠席の状況について (3) 不登校の状況について (4) 不登校の要因について (5) その他の状況について より説明。

(進行)

意見、質問を求める。

(委員)

長期欠席や不登校、その他の状況について、1,000人あたりの数を出しているのはどういった意味があるのか。どのように実体の数を把握すれば良いか。

(委員)

国が1,000人当たりで数を出している為、同じように比較できるようにしている。北杜市の場合は、小学生は約1,900人、中学生は約1,100人で、1,000人を基準に考えてもらおうと実態の数も把握しやすいと思う。

(委員)

本市は人が少ない分、全国で受けている影響が出やすいことを資料からも感じる。それだけお互いに影響しやすい環境にあり、クラスの中でも一人の児童や生徒に気分や気持ちが引きずられてしまうことがあるような気がする。

(委員)

本市と全国の状況について、グラフ数値ではよく理解できた。不登校児童生徒への支援は社会的に自立することを支援すると資料にある。公教育を受けることが望ましいが、将来自立して社会人になって立派に生活できる、あるいは家庭を築ける社会の一員として活躍できることが一番の目的になると思う。ただ、今の時点でそういった教育を受ける環境にない子ども達がいることを心配している。不登校児童生徒へのICTを活用した学習支援があるが、それさえも受けられない子ども達をどう支えていくのが課題だと思う。

(教育部)

今の学校教育というのは、子ども達が学校に来てくれるのを待っていて、教育をするということが大前提だった。子ども達が学校に来ることができない状況に対して、どのような形でも学びに出ていってくれば、それが社会的自立につながっていくと思うが、それさえもできない場合に、いかにこちらから子ども達に手を差し伸べることができるか。また、こちらから出向くことができるのというのは、これからの大きな課題ということをつくづく感じる。

(委員)

現実には、不登校になった原因の一つにゲームやSNS依存という場合もあり、子どもの対応も保護者が手に負えなくなっているケースもある。その対応も必要だと思う。長期欠席の理由については、学校に行きたくても行けない子どももいる反面、学校教育に期待をしてない保護者もいて、その指数がはっきり出ている。学校教育の良さを保護者にもわかってもらえればと日頃から感じている。基礎学力や対人的な活動等、工夫してプログラムが作られていることを理解してもらえると変化があるのではないか。家庭を含めて学校へ行けない子どもの要因を取り除いて何とか一人でも二人でも不登校を減らす方向にもっていければいいと思う。

(進行)

児童生徒のゲーム依存の対策や基礎学力向上の取り組みについてはどうか。

(教育部)

ゲーム依存の対策については、毎年児童生徒にアンケートをとっており、長時間ゲームをしていると回答した児童生徒の保護者には懇談時に様子をよく見てほしいと伝えているところである。今後、より良い対応策を検討していく。

基礎学力については、一度家にひきこもるような状態になると、高めていくことは難しい状況ではある。その一方で、学校で一人1台タブレットが導入されており、その中には小学校の1年生から中学3年生まで、どの学年の子どもも過去学習を振り返ることができ、そういった形ですまじいたところから学習を始める環境は整いつつある。

(委員)

長期欠席者の中にはフリースクール等に通っている子どももいる。フリースクールに通っている割合は調査しているのか。また、学力的な補償があれば、フリースクールに通わせる保護者は今後増えると思うが、動向の実態把握できているのか。

(進行)

フリースクールの状況についてはどうか。

(教育部)

毎月一度の長期欠席調査というものを県が主導して行っているものがある。その中で、月々でどんな状況で休んでいるのかという所見を書く欄があり、その中でなぜフリースクールに通っているのかも分かるため、把握はできている。

(委員)

フリースクールについて把握していることを、県内の市町村と情報交換しているのか。保護者はフリースクールの存在を気にすると思う。

(教育部)

具体的な数値で情報交換を行っていない。ただ、それぞれの地域でどれくらいフリースクールがあるかは把握している。本市はフリースクールの数は多

い方だと考えていて、結果として、子どもたちにとっては通いやすい環境にあることは事実だと考える。

(進行)

各小学校で、フリースクールに通っている人数は把握しているか。

(教育部)

把握している。

(委員)

不登校の要因は人それぞれ状況によっていろんなケースが考えられるため、個別指導が必要になってくる。しかし、学校現場は対応の仕方について非常にエネルギーを要し、教育委員会の力を借りてもなかなか解決に結びつかない状況がある。そして、親も余裕がなくて子どもと接する時間も少なく、親が抱えているつらさを聞いてあげる環境もない。SSWの先生に時間を作っていたでき、できるだけ家庭の教育力の向上につながるようにしてほしい。また、スクールカウンセラーに関しては、保護者や教員に適切なアドバイスができるような時間の確保をしていただきたい。

(委員)

高校の通信制の教育課程への受験が超過しているということを知り、多様な学びが広がっている。本来は、多様な学びという観点から、一度学校に通えなくなり学年の年齢が過ぎてしまっても、もう一度同じ学年で学校に通えるような環境があれば良いと思うし、私たちがそのような意識を持てるようになると良い。自由に学び方を選択できるような環境になれば良いと思っている。

(進行)

コロナの状況で給食も黙食ということもあり、何か一つでも学校に行くと楽しいと思うことがあれば学校に行くと思うが、難しい。様々な要因がある中で、努力して一人でも不登校の子供達を減らしていくことが重要かと思う。

「(3)「原っぱ教育」推進のための「ほくと學」応援事業について」を教育部に説明を求める。

(教育部)

資料『北杜市総合教育会議』(1) 学習応援事業の実施状況 (2) ふるさと探

検事業の実施状況（3）指導資料「ほくと學」の作成と活用（4）ICT 教育推進事業の状況 により説明。

（進行）

私から1点、非常に立派な「ほくと學」の一覧表になっていると思うが、この情報の更新は随時行っていくということでよろしいか。

（教育部）

今年度から「ほくと學」として資料を各学校の先生方をお願いして作成した。これらについては各学校の先生方がPDFデータで所有している。更新については来年度も引き続き取り組んでいきたいと思っている。

（委員）

児童、生徒、教職員はもちろん、地域の方にはどの程度公開されていくのか。

（教育部）

「ほくと學」につきましては教師向けに作成しているため、教師向けのみ活用する。著作権等の問題があり、今のところは教師向けに、授業で活用していきたいと思っている。

（委員）

この「ほくと學」をそのまま子どもたちに見せるのではなく先生方が学んだ上で、自身の言葉で伝えていくということか。

（教育部）

使い方は様々で、これらをそのまま使う場合もある。子どもたちが学ぶフィールドである本市について先生たちの知識がないと子どもたちに教えられない為、この「ほくと學」を活用し、教育の下支えになればよい。また、学区ごとに物事を考えるのではなく、北杜市を一つの学区として考えるための一つの指針になれば良い。

（委員）

上田市に「上田學」というものがあり、地域の生涯学習として確立されている。「ほくと學」も同じように地域に広めていければ良いと思う。地域の皆さんにも共有していければよい。

(進行)

地域にも共有をお願いしたい。

(委員)

まず子どもたちにとって自分たちが住んでいる地域の魅力に気づいていくという機会をつくっていくことが大事だと思う。立派な「ほくと學」の一覧表を作成いただき、いろんな学習活動に活用していけると思う。そして、自分の興味のあることを調べたいという、自主性や自立につながり、いじめや不登校の改善にも影響すると思う。生涯に渡って自分が自信を持って継続していけるようなことを見つけることができれば、素晴らしい教育活動が展開されると思う。また、教職員に余裕がないと、なかなかよいビジョンも生まれない。コロナの対応で、エネルギーも必要な状況で、子どもと接する時間が非常に少ない。それを子どもと話す時間を増やしていき、コミュニケーションの時間を大切にしていくと、子供たちも新たな発見が出来、さらに自信につながっていくと思う。

(委員)

この一覧表は見ていて楽しく、とても興味深い。紙の質を良いものにするるとさらに効果が大きいと思う。

(教育長)

今後検討する。もっと地域の方等に「ほくと學」を広げていくことについて、今後内容を更新する中で、著作権が関わらないような形で作成し、公開できるような形になっていけばよい。先生方や子どもたちがほくと學に関心を持てば、もっと周囲に広がっていくと感じる。

(委員)

「ほくと學」を先生方が作成する中で、地域の人から話を聞くことが、学校と地域をつなげる機会になったと思う。私たちも知らない本市の魅力を発見でき、様々なところで活用できると思う。北杜から山梨にそして日本中に学習を広げている学校もあるかと思うが、まずは身近なところから関心を向上させるようなすごくよい資料だと思う。私も資料を見ながら足を運ぶことができれば良いと思っている。

(委員)

I C Tの活用について、コロナ禍で一気に活用が進んだ。先生方にI C Tの良さをしっかり認識いただき、継続してI C T利用の効果を上げていってほしい。

い。

(進行)

端末を利用する中で、つながりにくいことがあったが、対策についてはどうか。

(教育部)

学校のICT関係は、来年の11月完成を目指し、12月本稼働というスケジュールで準備を進めている。

(委員)

ICT端末が普及し、学校で一人1台端末を用いている。しかし、基本的には、子どもたちに接する際は、対面式で目と目を合わせるということが一番大事な教育だと思う。このような原点だけは私たちが失ってはいけないし、直接体験をし、五感を通して触れ合うような教育を基本として考えていくことが大事だと思う。この「ほくと學」も教育の基本になっていく。ぜひ今後とも役立てていってほしい。

(進行)

その他について、意見、質問等あるか。  
以上で協議事項を終了する。

(事務局)

以上で北杜市総合教育会議を終了する。

5. 閉会

(午後3時30分)